



によって熱中する遊びは異なります。私の場合は、いろいろなものを作ることに熱中しました。思い返してみると、HOゲージという車輪の幅が18ミリメートルの小さな模型電車（今はもっと小さいものもありますが）の座席の一つ一つを作つて何十ととりつけたこともあります。薬莢を銃身にして火薬で発砲する鉄砲を作つたこともあります。ラジオづくりにも音が出るまで夜を徹して取り組んだものです。高校の頃はクラブでしたけど、プラネタリュームのドームを組み立て式で作つたり、太陽の動きを追う赤道儀を自転車の部品で作ろうとしたりしました。またその他にも、4坪ほどの部室を他の生徒と作つたりしました。これは生徒会の取り組みとしてやつたので、一大プロジェクトなのですが、自分の中では遊びでした。集団でやることは一山越えたときも、一人屋根に上つて仕上げに精を出したのですから。

こういった面は、大きくなつてもよく出てきます。パソコンを組み立てたり、さまざまなパーツを取り付けたりして、何とか動く頃には空は白んでいました。手労研に関わつたり、技術科の教師になったのも、こういった、ものを作りたいということがあつたからでし

ょう。でも、作ることが好きだから誰でも同じように取り組むか、というとやはり人による違いがあります。私は宮津さんのように次々と教材を生み出し子どもと楽しむ、というのとは違うみたいです。人がやっているのを見ると、自分も負けずにやってみたい、と思つてしまうのです。もちろんまったく手の届かないものは別ですが、パソコンのプログラムを組むことなどにはやはり熱中しました。長年の夢であったログハウスも3年前に完成させました（8坪位あります）。そして、今は家具づくりに熱中しています。実際は時間がなく、工房に行けないため、いらいらしている状態

です。

こうやって振り返つてみると、しちめんどくさい理屈をこね回すことがありますが、取り組んでいる最中とか、その結果に何となく満足感をおぼえるあそびが自分の人生の軸になつていたように思います。なぜ、作ることが好きになつたかわかりませんが、そういうあそびが人の「ベース」となり得るものかもしれないと思っているところです。ですから、自分がその人なりにしらずに熱中して取り組んだ「あそび」を大切にしたいものだと思っています。



熱中ある遊び

森 下一
期

(和光中高)

・編集後記・

近年、工作教育分科会では、小学校工作・技術教育のあり方を模索する努力が続けられている。今回の特集は、こうした努力に役立つことを願つて編集したものである。原稿は、小学校工作・技術教育に関する諸外国の現状

及び日本の歴史に関し、研究者及び実践に従事している方々に執筆して頂いた。快く執筆して下さった皆様に感謝したい。特に東京サークルで報告して下さった呉・金先生には記して謝意を表する次第である。（丸山剛史）